

東手城医療モールに第2の診療所

耳鼻咽喉科 堀病院が進出決める

花粉症の治療などに注力

医療と健康の複合施設「東手城ヘルスケアモール」(福山市東手城町1-3-11)に、耳鼻咽喉科専門の堀病院(同市沖野上町3-4-13、堀 興雄院長、電084・926・3387)が進出する。もりかわ内科に続く2番目の医療機関で、サテライトクリニック(分院)として来年2月2日のオープンを目指す。

反面、患者ニーズは高いため開業を決めたという。「親子で安心して通院できるクリニック」がコンセプトで、50㎡の広い待合室やキッズルーム、親子トイレ、感染症患者の待機室などを配置し、幼児対応の聴力検査装置や手術可能な顕微鏡、超音波装置、電子内視鏡、CO2レーザー治療器を導入。電子カルテなどの合理化で待ち時間の短縮を図る。診療は午前9時～正午、午後3時～6時。木曜日午後と日・祝日は休む。

慢性中耳炎手術で4千例を超えるなど西日本有数の実績を持つ。県東部と岡山県西部には耳鼻咽喉科医が少なく、手術できる医療機関も限られるが、



モールで営業中の自然食レストラン穀灯やココフル薬局と共同で花粉症やアレルギーを軽減させる料理メニュー、アロマテラピーを開発し、スポーツクラブのJOYFIT、もりかわ内科との提携企画も考えている。

責任者の宇崎 毅副院長(39)は「花粉症は増加傾向。2院態勢なら予防薬の投与や診察、治療がスムーズにできる。無床の診療所だが病院クラスの設備を整えた。アレルギー

性鼻炎の治療や睡眠時無呼吸症候群などの相談にも応じたい」と話す。1996年に九州産業医大を卒業し、同大附属病院で助手を務めた後、九州、熊本の両労災病院で耳鼻咽喉科部長を歴任。今年10月、堀病院に副院長として赴任した。写真は診療風景。

福山大が1月22日 防災シンポジウム

福山大学構造・材料開発研究センター(福山市学園町1番地三蔵、センター長・宮内克之)が主催する「地域防災シンポジウム」を開く。井上達雄客員教授を中心に取り組んだ「地域防災教育・研究プロジェクト」の成果を公表し、地域の防災力を高めるのが狙いで、土岐憲三・立命館大教授の基調講演「文化財を地震火災から守ろう」に続き、福山大の鎌田輝男、服部 進尚教授がそれぞれ「中国地区の地震と防災」「森林管理のために高精度地図データをつくる」の仮題で特別報告。土岐、鎌田両教授や尾島 勝・福山大特任教授、行政の防災文化財保護担当者らによるパネルディスカッション「地域防

災をかんがえる」もある。参加対象は一般市民、行政職員、コンサルタントや建設会社などの防災担当技術者。無料。問い合わせは同センターの寺井さん(電084・936・2112)へ。

瀋陽に生産子会社 北川鉄工所が設立

(株)北川鉄工所(府中市元町77-1、北川祐治社長、電0847・45・4560)は12月6日、中国・瀋陽市に全額出資の生産子会社「北川(瀋陽)工業機械製造有限公司」を設立した。中国市場への迅速な製品投入が狙いで、2012年2月から、旋盤用チャックなど工作機械周辺機器や粉砕装置・部品などを開発・製造し、初年度1億5千万円の販売を見込む。

資本金は550万ドル。投資額1375万ドル。北川社長が代表を務める。

▽第4回人権・平和フォト市民作品展 福山市丸之内の人権平和資料館(電084・924・6789)で12月26日(日)まで。応募65点の中から入賞した重村直孝さんの「K子ちゃん」(人権部門)、島田 克さんの「微笑み」(平和部門)を始め、各3点の入選作品などを展示している。

社団法人 福山青年会議所は2010年、創立50周年を迎えます。

より良い福山の「まちづくり」「ひとづくり」を目指すために日々活動しています。50年の歩みから新たな一歩を創造します。

ReStart 一丸となり新たな一歩を踏み出そう 50th Anniversary

11月 100名出席例会

JCI 社団法人 福山青年会議所 FUKUYAMA JUNIOR CHAMBER, INC.

福山市西町2丁目10-1 福山商工会議所7F TEL:084-922-5592 http://www.fukuyamajc.com/

環境印刷のリーディングカンパニー

人にやさしい文字、色彩。

誰もが使いやすく、見やすい
メディア・ユニバーサル・デザイン

株式会社 小山オフセット印刷所
〒720-0053 広島県福山市大黒町2-24
TEL.084-922-0280 FAX.084-924-2122